

Title	橋本順一教授 自筆略年譜；業績一覧
Sub Title	Chronologie et travaux du professeur Hashimoto Junichi
Author	橋本, 順一 (Hashimoto, Junichi)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2014
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. フランス語フランス文学 (Revue de Hiyoshi. Langue et littérature françaises). No.58 (2014. 3) ,p.1- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	Mélanges offerts au professeur Hashimoto Junichi = 橋本順一教授退職記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20140331-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

橋本順一教授 自筆略年譜

- 1948年（昭和23年）8月 埼玉県大里郡豊里村北阿賀野に生まれる。
- 1949年（昭和24年）4月 零歳 両親、北海道勇払郡追分町字豊富に開拓農民として入植。
- 1955年（昭和30年）4月 6歳 追分町立追分小学校入学。
- 1960年（昭和35年）4月 11歳 離農に伴い、隣町の早来町立遠浅小学校に転校。
- 1961年（昭和36年）4月 12歳 早来町立遠浅中学校入学。
- 1964年（昭和39年）4月 15歳 国立苫小牧工業高等専門学校機械工学科入学。
- 1965年（昭和40年）3月 16歳 同校中退。
- 1965年（昭和40年）4月 16歳 道立苫小牧東高等学校入学。
- 1966年（昭和41年）4月 17歳 埼玉県立熊谷高等学校に転入学。
- 1968年（昭和43年）3月 19歳 同校卒業。
- 1968年（昭和43年）4月 東京大学文科Ⅲ類入学。6月より無期限スト始まる。
- 1970年（昭和45年）10月 22歳 東京大学文学部仏語仏文学科進級。
- 1974年（昭和49年）3月 25歳 同学部同学科卒業。
- 1974年（昭和49年）4月 慶應義塾大学文学研究科修士課程フランス文学専攻入学。
- 1977年（昭和52年）3月 28歳 同研究科修士課程修了。4月同博士課程フランス文学専攻進学。
- 1978年（昭和53年）4月 29歳 慶應義塾大学商学部助手。
- 1980年（昭和55年）3月 31歳 慶應義塾大学文学研究科博士課程単位取得退学。4月より1年間、湯川武教授（商）が委員長となった慶應義塾労組日吉支部の情宣部長を務める。

- 1982年（昭和57年）10月 34歳 フランス政府給費留学生としてモンペリエ大学に留学。
- 1983年（昭和58年）10月 35歳 パリ第Ⅲ大学D.E.A. 課程入学。
- 1984年（昭和59年）9月 帰国。
- 1985年（昭和60年）4月 海野厚教授（法）本部委員長のもと、慶應義塾労組本部副委員長を務める。この頃から永戸多喜夫教授（経済）主宰の「20世紀芸術研究会」に参加。日吉新図書館（現日吉メディアセンター）地下AVホールにて、ビデオ・16mmフィルムによる、映画上映会を定期的に行なう。
- 1987年（昭和62年）4月 38歳 慶應義塾大学商学部助教授。
10月より2年間、商学部学習指導副主任。
- 1991年（平成2年）8月 田中淳一教授（経済）、小潟昭夫教授（ク）らと共に、SFCにて開催された「第2回湘南カンヌ映画祭」で、企画・プログラム制作・字幕制作・アテンド・シンポジウム司会など、全面的協力。
10月より2年間、商学部学習指導主任。
- 1994年（平成5年）4月 45歳 慶應義塾大学塾派遣留学で、パリ第Ⅲ大学に留学。
- 1995年（平成6年）3月 46歳 帰国。
- 1996年（平成7年）6月 この頃から定例化された、「フランス横浜映画祭」代表団による、日吉講演会の司会兼アテンドを8年間続ける。
- 1998年（平成9年）4月 49歳 慶應義塾大学商学部教授。この頃から鷺見洋一教授（文）が所長を務める「慶應義塾大学アートセンター」運営委員となり、畏友藤崎康と共に映画上映会・講演会・シンポ

- ジウムを多数企画・実行。
- 2001-5年（平成12-16年） 宮下理恵子准教授（法）、堀茂樹教授（総合政策）らと共に「フランス女性問題研究会（CEFEP）を立ち上げ、講演会を企画・実行する傍ら、5号に及ぶ論文集の編集長を務める。
- 2005年（平成16年） 10月より2年間、商学部日吉主任。
- 2007年（平成18年） 「商学部創立五十周年記念日吉論文集」発刊の総責任者。秋より1年間、慶應義塾労組本部委員長。
- 2008年（平成19年） 4月より6年間、慶應義塾體育會自転車競技倶楽部部長。
- 2014年（平成25年）3月 65歳 定年退職。
- 2014年（平成25年）4月 慶應義塾大学商学部名誉教授。

業績一覧

論文

1. 「レオス・カラックス論（その4）（『ポーラ X』またはボーイ・ロスト・ザ・ワールド）（『日吉紀要 フランス語フランス文学』第46号、2008年）
2. 「フローベール『紋切型辞典』の取消線」（商学部創立五十周年記念日吉論文集、2007年）
3. 「『ボヴァリー夫人／アブラハム溪谷』を読む／見る」（『日吉紀要 フランス語フランス文学』第42号、2006年）
4. 「終末への逃走あるいは皆殺しの天使—黒沢清論—」（慶應義塾アートセンター「ブックレット08号」2001年）
5. 「映画にとって美とは何か（その2）」（『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第21号、1998年）
6. 「映画にとって美とは何か（その1）」（『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第20号、1998年）
7. 「小説・歴史・シネマー不幸なトリアーデについてのノート—」（『日吉紀要 フランス語フランス文学』第20号、1995年）
8. 「レオス・カラックス論（その3）」（『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第8号、1992年）
9. 「『サラムボー』論—歴史小説試論」（『日吉紀要 フランス語フランス文学』第12号、1991年）
10. 「レオス・カラックス論（その2）」（『日吉紀要 フランス語フランス文学』第11号、1990年）
11. 「レオス・カラックス論（その1）」（『日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第6号、1990年）
12. 「『フローベールの（女）性関係』（J.-L.Douchin）と『フローベールの小説における女性—神話とイデオロギー—』（L.Czyba）」（『日吉紀要 フランス語フランス文学』第7号、1988年）

13. 「知られざる『候補者』または政治劇の誘惑—“*Le Candidat*”論—」(『日吉紀要 フランス語フランス文学』第4号、1987年)
14. 「『感情教育』の二つのエピローグをめぐって」(商学部創立25周年記念日吉論文集、1982年)

翻訳

1. 『ルイ16世伝記』(ジャン＝クリスチャン・プティフィス著、共訳、中央公論社、2009年)
2. 『サヴィニャック自伝』(レイモン・サヴィニャック著、TOブックス、2008年)
3. 『ドラキュラ・ホームズ・ジョイス文学と社会』(フランコ・モレットティ著、共訳、新評論、1992年)
4. 『ベル・エポックのパリ』(大丸ミュージアム図録、共訳、1992年)
5. 『セーヌに架かる橋——パリの街並を彩る37の橋の物語——』(東京ステーションギャラリー図録、1991年)
6. 『パリの終着駅——19世紀の駅にみる美術と建築——』(東京ステーションギャラリー図録、1990年)